

大阪医科薬科大学(前期) 英語

2026年2月10日実施

問題 I

- デジタル機器を日常的に使用することは、高齢者の認知能力低下を 58%抑えるようであり、これは血圧を下げること、運動をすること、脳トレをすることによって得られる予防効果と同等である。
- ① い ② う ③ く ④ か
- デジタル機器の普及を実際に体験した世代。
【別解】 デジタル機器の影響を初めて実証する人々。
- A、D
- (ア) う (イ) い (ウ) え (エ) お
- ① こ ② お ③ あ ④ き
- ① D ② C ③ A
- (オ) こ (カ) そ (キ) し (ク) え (ケ) く

問題 II

- C
- C
- B
- B
- D
- (ア) D (イ) B (ウ) E (エ) E (オ) A
- ① う ② か ③ え ④ く ⑤ き

問題 III

- (1) At one time, Zen training aimed at integrating with the whole of nature.

【別解】

Traditionally, Zen practice aimed at achieving unity with the great natural world.
People who practiced Zen used to try to become one with nature.

- (2) That's why building gardens that distill the essence of nature was regarded as one form of Zen training.

【別解】

As a result, creating gardens by condensing the essence of nature was regarded as one form of Zen practice.

With that in mind, creating a garden that captures the essence of nature was recognized as one way to practice Zen.

完成した言い換え文の意味は「これらの結果は、タイプライターをやめてコンピュータを使い始めた人々が、長年にわたるテクノロジーの使用により、かえって記憶力に問題を抱えることになるのではないかと懸念に反するものである」である。

3. [説明問題]

下線部(3)の“digital pioneers”が何を指すのかを答えるに当たって、最も明確な根拠となるのは第22段落である。その1文の意味は『今回のレビュー研究は<デジタル・パイオニア>、すなわち、成人期に初めてコンピュータ、インターネット、スマートフォンに触れた中高年のグループに焦点を当てたものでした』と研究者らは記した」である。以上の記述をまとめることで何とか20字以内に収めると、

- ・各種のデジタル機器に最初に触れた世代。(19字)
- ・デジタル機器の普及を実際に体験した世代。(20字)

あるいは、第7段落で下線部(3)が初めて言及されており、その1文での“digital pioneers”の位置づけを考慮すると、別の解答も考えられる。第7段落の意味は『デジタルのテクノロジーを扱うようになった最初の世代が、認知症のリスクが生じる年齢に達しています』。これにより彼らは『デジタル・パイオニア』となるのです、と研究者たちは語った。この記述から読み取れるのは、デジタル・パイオニアとされる世代は、デジタル機器の使用により認知能力の低下が促進されるのかどうかを、身をもって証明する世代となる、という意味合いである。これを短くまとめると、次の通りである。

- ・デジタル機器の影響を初めて実証する人々。(20字)

4. [内容不一致問題]

- A. 「インターネットのない生活を経験したことのない人」
- B. 「かつて手紙を手書きしていた人」
- C. 「現金や小切手を使って請求書を支払うことに慣れていた人」
- D. 「幼い頃からスマートフォンやソーシャルメディアを利用してきた人」
- E. 「かつて図書館のカード目録に頼って情報を探していた人」

正解はA及びDである。“The same individual”とは第8段落冒頭の“Someone born in 1945”「1945年に生まれた人」を指すので、根拠は同段落に求めることになる。第8段落の意味は「1945年に生まれた人は、(C)請求書の支払いに小切手や現金を使い、(E)情報を調べるには百科事典や図書館のカード目録を利用し、新しい場所を移動する際には折りたたみ式の紙の地図に頼り、(B)米国郵便局を通じて送られた手書きの手紙を交換するには数日待たなければならなかったと研究者らは述べた」である。以上のように、B、C、Eについては本文で述べられているが、AとDの記述は見当たらない。

5. [空所補充問題]

第9、10段落の空所に前置詞を入れる問題である。順に見ていこう。

(ア)

This same individual is now approaching their 80's and lives (ア) a world where shopping occurs ...
s v1 v2

直後に“a world”ときているので in が入ると確定することは難しくないだろう。したがって正解はうである。

(イ)

new knowledge is acquired (イ) typing ...
s v

<acquire ~by doing ...> 「…することによって～を得る」というフレーズを知っていれば、by と確定することができる。したがって正解はいである。

ex. He acquired a law degree **by** taking classes at night.
「彼は夜間授業を受けて法学の学位を取得した」

(ウ)(エ)

~“< for people in midlife and beyond, > greater use (ウ) everyday digital technologies was associated with reduced odds for cognitive decline,” < (エ) people who regularly used devices having a 58% lower risk of brain impairment or dementia, > researchers found.

(ウ)については、“greater use (ウ) everyday digital technologies”全体が、動詞を含んだ表現を名詞化したフレーズである。of を入れれば「日常的にデジタル技術をより幅広く使うこと」と意味が通る。したがって正解はえである。(エ)については、一通り文が完結したあとに“people who regularly used devices”という名詞句のあとに、having という現在分詞が続いていることから、付帯状況であると見抜く。そのような機能をもった前置詞はいわゆる「付帯状況の with」である。したがって正解はおである。

6. [空所補充問題]

下線部(5)の英文を言い換えた英文の空欄に語を補充する問題である。まずは下線部(5)の内容を確認しよう。

Technology engagement was associated < with reduced odds of cognitive decline in middle-aged and older adults >

この1文の意味は「テクノロジーに触れることは、中高年および高齢者の認知機能低下のリスクを抑制することと関連していた」である。次に、空所を補充する英文は以下の通り。

Frequent (①) of technology was linked < (②) a lower chance of memory or thinking (③) among middle-aged and older (④).>

①については「技術の頻繁に~すること」とまとめられるので、use が入る。正解はこ。
②については本文の< be associated with ~>を言い換えた表現であるので、< be linked to ~>を想起することは難しくないだろう。

ex. Salary increase **is** intrinsically **linked to** performance.
「昇給は業績と密接に関連している」

③については動名詞 thinking の直後に来ていることから problems が入ることは意味的にも推測は難しくないだろう。したがって、正解はあである。

④については「中高年および高齢の~」とまとめられるので people 以外に適切な選択肢はない。したがってきが正解である。

7. [内容一致問題]

- A. 「デジタルツールはリマインダーを提供することで人びとの日常生活を支援することができ、それを利用することで高齢者は思考力が低下しても一人暮らしを続けることができる」
- B. 「オンライン上の娯楽のせいで、人びとは人間同士の関わり合いに参加する気を削がれている」
- C. 「科学技術のおかげで人びとは他者との関係を維持でき、このことは認知症を予防すると判明している」

D. 「デジタル機器の使用は、人びとに問題解決や新しい道具・気晴らしへの適応を要請することで、頭が活動するよう刺激を与える」

E. 「科学技術を利用することで、高齢者の視力や反応時間が改善する」

一つ目は、第 15 段落が根拠となる。その 1 文の意味は、「第一に、デジタル機器は、人びとが思考力や問題解決能力をもっと積極的に使うよう促すかもしれないが、それはオンラインの脳トレやパズルだけを通じてなされるのではない」である。よって[①]には D を選ぶ。

二つ目は、第 17 段落第 1 文が根拠となる。その 1 文の意味は、「第二に、デジタル技術のおかげで、人びとのつながりがより好ましいものとなり、それが認知症を予防することが示された」である。よって[②]には C を選ぶ。

三つ目は、第 18 段落第 1、2 文が根拠となる。それらの意味は、「そして第三に、デジタル機器は、脳が加齢による機能低下を経験するときでさえ、人びとの生活支援に役立つ『デジタルな足場』を築くかもしれない。料金の支払いをしたり、薬を飲んだりすることを思い出させる機能を利用することで、人びとが日々の必要なことをこなしていき、これまで以上に長く一人暮らしを続けることができる」である。よって[③]には A を選ぶ。

8. [空所補充問題]

(オ)は、“However, researchers (オ)that…” という前後の形から、that 節を目的語にとる他動詞を選ぶと判断する。さらに、that 節内が直接引用の形になっているので、研究者の発言あるいは論文等における記述からの引用である。したがって、空所には情報伝達の意味を持つ動詞がふさわしい。以上より、こ. noted 「～を指摘した、～に言及した」を選ぶ。空所を含む 1 文の意味は、「しかし、『科学技術が老いゆく脳にとって〈常に良い〉のかそれとも〈常に悪い〉のかという疑問に対する単純な解答は存在しない』と研究者は指摘した」となる。

(カ)は、“～if they (カ)<into couch potatoes>” という前後の形から、into につながる自動詞を選ぶと判断する。候補となるのは、え. focused (into～) 「(～に) 焦点を当てる」と、そ. turn (into～) 「(～に) なる、向かう」である。あとはそれぞれを空所に当てはめてみて、そ. turn だと判断する。空所を含む 1 文の意味は、「例えば、人びとが自堕落になると、画面を眺める時間が増えすぎて脳の健康が損なわれるかもしれないし、ソーシャルメディアを使うと、高齢者は誤った情報にさらされるかもしれない、と研究者は述べている」となる。

(キ)は、“And these findings should <only> be applied <to people (キ)>” という直前の形から、空所には people への修飾となる形容詞が入ると判断する。また空所に “at the start of the digital revolution” という時を表す副詞句が続くことから、し. present (at～) 「(～に) 居合わせる、(～に) 出席している」を選ぶとよい。people present (= those present) で「居合わせた人々、出席者」という意味になることもぜひ知っておこう。空所を含む 1 文の意味は、「そして、こうした調査結果は、デジタル革命が始まる時代に居合わせた人々にだけあてはめるべきだと研究者は言い添えた」となる。

(ク)は、“The current review (ク)<on ‘digital pioneers’, ~>” という前後の形から、on につながる自動詞を選ぶと判断する。また主語が単数なので、原形になっている選択肢は不適切である。以上より、え. focused (on～) 「(～に) 焦点を当てた、(～を) 重点的に扱った」を選ぶ。空所を含む 1 文の意味は、『最新の調査では、〈デジタルの先駆者〉すなわち、大人になって初めてコンピュータ・インターネット・スマートフォンに触れるようになった中年や老年の集団に焦点が当てられた』と研究者は記している」となる。

(ケ)は、助動詞 will の直後であり、後ろに目的語になる名詞が存在しないことから、自動詞の原形を選ぶと判断する。候補となるのは、う. focus 「焦点を当てる」と、く. hold 「あてはまる」であるが、(時を表す副詞句である “in future decades” があってわかりにくい) for につながることを踏まえ、く. hold (for～) 「(～に) あてはまる」を選ぶ。一応、文脈も確認してみると、主語となるのは

“the current findings” 「最新の調査結果」であり、すでに終了した調査・研究の結果であるから、その将来にふさわしいのは、やはり、く、「あてはまる」の方である。“will focus”だと、まだ未実施の調査・研究の話になり不適切である。空所を含む1文の意味は、『最新の調査結果が、将来数十年経って、デジタル技術に初めて触れたのが、子ども時代であるか、デジタル技術への一般的な触れ方が変化する時代である人びとにもあてはまるかどうかは不明である』と彼らは付け加えた。

II 長文総合

1. [文中空所補充]

(1) 「空所(1)に入れるのに最も適当な選択肢を選べ」

- A. 「年齢」
- B. 「死因」
- C. 「食生活」
- D. 「遺伝的背景」

空所(1)を含む英文の日本語訳は「科学者たちは母親の_____について詳しく知るために少年の骨を調査した」である。第1段落第1文“the first humans ~ depended heavily on mammoths and other large animals for food.” 「～最初の人類は、食料としてマンモスやその他の大型動物に大きく依存していた」、第2段落第1文“The finding is based on examinations of the diet of a woman ~” 「その発見は、～女性の食生活の調査に基づいている」、第4段落第1文“They found that they ate mostly meat ~” 「彼らは、その女性が主に～肉を食べていたことを発見した」とあることから、科学者たちは食生活について調べていたことがわかるため、C. を選ぶ。また、第3段落第1文“The woman was still breast-feeding her 18-month-old son ~” 「その女性は、～18ヶ月の息子にまだ授乳中であった」とあることから、少年の骨を調べることでその母親の食生活を知ることができることも納得できる。

2. [同義文選択]

(2) 「下線部(2)の内容に最も合う記述を選べ」

- A. 「研究者たちは、大型動物を捕まえるのが難しかったため、クローヴィス人が小動物や植物を食べることを余儀なくされていたと知った」
- B. 「研究者たちは、クローヴィス人が時折、植物と動物の両方を食べていたことを発見して驚いた」
- C. 「科学者たちは長い間、クローヴィス人が食料として大型動物を好んでいたと信じており、今回の発見はその考えを裏付けるものである」
- D. 「新しい発見は、クローヴィス人がめったに動物を狩らない菜食主義者であったことを示唆している」

下線部(2)の日本語訳は「この発見は、クローヴィス人が植物や小動物を探して食べるのではなく、大型動物の狩猟に特化していたという科学的理論を裏付けるものである」であるため、植物や小動物を食べていたという記述を含む選択肢は不適である。よって C. を選ぶ。

3. [指示代名詞の指す内容]

(3) 「下線部 (3)them が指すものを最も良く説明している選択肢を選べ」

- A. 「南北アメリカと北アジアの一部を含む地域」
- B. 「マンモス」
- C. 「クローヴィス人」
- D. 「研究者たち」

下線部(3)を含む英文の日本語訳は「このために、タンパク質が豊富な食料を求める移動中の人間は、それらを標的にした」である。“them” が指すのは複数形の名詞であり、直前に出てきた複数形の名詞には、“The researchers” 「研究者」、「mammoths」 「マンモス」、「very long distances」 「とても長い距離」があるが、このうち選択肢に含まれ、かつ食料となるものを指すため、B. を選ぶ。

4. [語句を説明する文]

(4) 「下線部 “(4)chemical fingerprint” を最も良く説明している選択肢を選べ」

- A. 「それは窒素を除去する」
- B. 「それはその人の食事の摂取に関する手がかりを与える」
- C. 「それは人とその親族を照合する」
- D. 「それはその人の遺伝的背景を明らかにする」

下線部(4)を含む英文の日本語訳は「ウーラーはロイター通信に対し、同位体検査は古代の人類の食生活の一部に関する化学的な指紋を提供できると語った」であり、第8段落第2文に“‘We are all made of elements, like carbon and nitrogen, and so is our food’, he said” 『私たちは皆、炭素や窒素のような元素でできており、私たちの食べ物もそうです』と彼は言った」とあることから、ここでは食生活や食べ物に関する記述を含む B. を選ぶ。

5. [語句説明]

「(5) megafauna に関して正しい記述を選べ」

- A. 「それは数百年前のすべての大型動物を指していた」
- B. 「研究者たちはこの研究で新たな種類の巨大動物を発見した」
- C. 「巨大動物は人間のタンパク源としてはほとんど役に立たなかった」
- D. 「マンモスは巨大動物の一種とみなされている」

下線部を含む第10段落第1文において、下線部 megafauna の直後に「当時存在していた最大の動物」とあり、これは megafauna についての説明だと考えられる。また続く第10段落第2文において、「研究によれば、その女性が食べていたものの約96%を megafauna が占めており、マンモスが全体の約40%を占めていた」とある。マンモスは、megafauna に含まれると考えなければ、この1文の文意が成立しなくなる。よって、マンモスは巨大動物である megafauna の一種だとみなされていることがわかる。

6. [指示内容]

「下線部 (ア) ~ (オ) について、それぞれ示している人物を選び、対応する文字で答えよ。(選択肢は複数回使用される場合がある)」

- A. 「アラスカの考古学者」
- B. 「アラスカ安定同位体センターの所長」
- C. 「モンタナ州の高齢の男性」
- D. 「クローヴィス人の少年」
- E. 「カナダのマクマスター大学の教授」

下線部(ア)を含む1文のおよその意味は「科学者たちは彼の母親の〜についてさらに知るために彼の骨を調べた」である。空所を含む1文の直前の第3段落第1,2文に「その女性は18ヶ月の息子にまだ母乳を与えていたが、その子は亡くなった。少年の遺体は1968年、米国西部のモンタナ州にある古代の埋葬地で発見された」とあるため、下線部(ア)における his の指す内容は明らかに「遺体として発見された少年」である。この女性とその子供はクローヴィス人に属することは第2段落からわかる。

下線部(イ)における he は、直前の第8段落第1文の主語のウーラーである。第7段落第1文に「マット・ウーラーはアラスカ大学フェアバンクス校のアラスカ安定同位体センターの教授兼所長である」とある。

下線部(ウ)における He は、直前の第12段落第1文の主語のチャターズである。第9段落第1文に「ジェームズ・チャターズは、カナダのマクマスター大学で地球・環境・社会学の教授を務めている」とある。

下線部(エ)における he は、直前の第13段落第1文の主語のチャターズである。

下線部(オ)における He は、直前の最終段落第3文の主語のポッターである。最終段落第1,2文に「ベン・ポッターもこの研究の共著者である。彼はアラスカ大学フェアバンクス校の考古学者である」とある。

7. [要約英文完成問題]

「本研究に関わった人々について、各空欄 (①～⑤) に最もふさわしい語を以下の選択肢から選び、対応する文字で答えよ。(各選択肢は一度しか使用できない。)」

要約英文とその和訳は以下の通り。

This study involved scholars such as Mat Wooller, who **provided** insights into ancient diets; James Chatters, who contributed from environmental **perspectives**; and Ben Potter, who suggested that humans might have **influenced** megafauna extinctions to a greater extent than is typically assumed. Together, their interdisciplinary cooperation helped **reveal** how Clovis people **relied** heavily on large animals.

「本研究には、古代の食生活に関する知見を**提供した**マット・ウーラー、環境的**観点**から貢献したジェームズ・チャターズ、そして人類が従来想定されていた以上に巨大動物の絶滅に**影響を与えた**可能性を示唆したベン・ポッターといった学者たちが参加した。彼らの学際的な協力は、クローヴィス人がいかに大型動物に**依存していたか**を**明らかにする**のに役立った」

(①)については、Mat Wooller を主語とし、insights into ancient diets を目的語とする他動詞の過去形が入るが、第 8 段落第 1 文が根拠となる。その 1 文の意味は「ウーラー氏はロイター通信に対し、同位体調査は、古代人の食事内容の『化学的指紋』を**提供してくれる**と述べた」である。要約文に、う. provided を入れると「古代の食生活に関する知見を**提供した**」となり文意が通り、内容も本文と矛盾しない。

(②)については、形容詞 environmental の修飾を受ける名詞が入る。選択肢の中でこの条件に該当するのは、い. bones 「骨」、か. perspectives 「観点」の 2 つである。か. perspectives を入れると「環境的**観点**から貢献した」となり要約文の文意が通る。本文に根拠を求めると、第 9 段落第 1 文である。その 1 文の意味は「ジェームズ・チャターズはカナダのマクマスター大学で地球・**環境**・社会学の教授を務めている。彼はこの研究の**主導的役割**を担った」である。環境に関する専門家でもあるチャターズ氏がこの研究の**主導的役割**を果たしたということは、この研究に関して、環境的観点から貢献したと考えられる。

(③)については、humans を主語とし、megafauna extinctions を目的語とする他動詞の過去分詞形が入るが、最終段落最終文が根拠となる。その 1 文の意味は「彼はさらに、この発見は人類が絶滅に、時に考えられている以上に**重要な役割**を果たした可能性を示唆していると付け加えた」である。要約文に、え. influenced を入れると「人類が従来想定されていた以上に巨大動物の絶滅に**影響を与えた**」となり文意が通り、内容も本文と一致する。

(④)については、<help do> 「～するのに役立つ」を想定すると、動詞の原形が入るが、この条件に該当するのは、く. reveal 「～を明らかにする」である。また、(⑤)については、後ろに前置詞 on があるため、Clovis people を主語とする自動詞が入る。<rely on> 「～に依存する」が入ると予想される。(④)と(⑤)に、それぞれ、く. reveal、き. relied を入れると「クローヴィス人がいかに大型動物に**依存していたか**を**明らかにする**のに役立った」となり要約文の文意が通る。これは、第 1 段落に対応する。その 1 文の意味は「新たな研究によって、北アメリカに最初に定住した人類は、食料としてマンモスやその他の大型動物に大きく**依存していた**ことが**明らかになっている**」である。

Ⅲ 和文英訳

(1) At one time, Zen training aimed at integrating with the whole of nature.

[別解 1]

Traditionally, Zen practice aimed at achieving unity with the great natural world.

[別解 2]

People who practiced Zen used to try to become one with the immensity of nature.

[別解 3]

Historically, it was the norm to aspire to achieve oneness with the vast natural world in Zen practice.

[別解 4]

In earlier times, the practice of Zen was based on the ideal that one should seek harmony with the grandeur of nature.

- | | |
|-----------|--|
| (1) 「かつて」 | at one time / traditionally / historically / in earlier times / in the past / used to <i>do</i> ~ など。 |
| 「禅の修行」 | Zen training / Zen practice / practice Zen / the practice of Zen など。 |
| 「大いなる自然」 | the whole of nature / the great natural world / vast nature / the immensity of nature / the grandeur of nature など。 |
| 「～との一体化」 | integrate with ~ / achieve unity with ~ / become one with ~ / achieve oneness with ~ / seek harmony with ~ など。 |
| 「～を目指す」 | aim at <i>doing</i> ~ / try to <i>do</i> ~ / aspire to <i>do</i> ~ など。 |

(2) That's why building gardens that distill the essence of nature was regarded as one form of Zen training.

[別解 1]

As a result, creating gardens by condensing the spirit of nature was regarded as one form of Zen practice.

[別解 2]

With that in mind, creating a garden that captures the essence of nature was recognized as one way to practice Zen.

[別解 3]

To that end, assembling the core of nature into a garden was perceived as one means of Zen practice.

[別解 4]

For this purpose, it was accepted as part of Zen practice to compress the heart of nature into a garden.

- | | |
|---------------|--|
| (2) 「そのため」 | that's why / as a result / therefore / thus / hence / consequently / with that in mind / to that end / for this purpose / for that reason / accordingly など。 |
| 「自然のエッセンス」 | the essence of nature / the spirit of nature / the core of nature など。 |
| 「～を凝縮して」 | distill / condense / capture / assemble / compress など。 |
| 「庭園を造る」 | build gardens / create a garden など。 |
| 「禅の修行の一つ」 | one form of Zen training / one form of Zen practice / one way to practice Zen / one way to practice Zen / one aspect of Zen training / one of the practices in Zen / a practice associated with Zen / part of Zen practice など。 |
| 「～として認識されている」 | be regarded as ~ / be recognized as ~ / be perceived as ~ / was accepted as ~ など。 |

- (3) One of the features of gardens influenced by Zen thought is subtly representing natural landscapes, such as creating the image of waves using sand.

[別解 1]

One characteristic of gardens influenced by Zen philosophy is the skillful representation of natural scenery, including crafting images of waves using sand.

[別解 2]

One defining feature of a garden inspired by Zen thinking is to ingeniously incorporate natural scenery into its design. For example, this can be seen in making an image of waves by utilizing sand.

[別解 3]

A distinguishing aspect of Zen-influenced gardens is that they artfully embody natural scenery. The creation of waves in sand is a case in point.

[別解 4]

A hallmark of gardens that Zen has an influence on is their delicate use of sand to mimic natural scenes, like waves.

「禅の考え方に影響を受けた庭園の特徴の一つは～」は One of the features of gardens influenced by Zen thought ~ / One characteristic of gardens influenced by Zen philosophy ~ / One defining feature of a garden inspired by Zen thinking ~ / A distinguishing aspect of Zen-influenced gardens ~ / A hallmark of gardens that Zen has an influence on ~ など、「砂で波のイメージを造るといったような～」は such as creating the image of waves using sand ~ / an example of which can be seen in making an image of waves by utilizing sand ~ / for example by creating waves in sand ~ / creating waves in sand is a case in point ~ など、「自然の景観を巧みに表現することである」は subtly representing natural landscapes ~ / the skillful representation of natural scenery ~ / to ingeniously incorporate natural scenery into its design ~ / they artfully embody natural scenery ~ などとするとよい。

講評

- I [長文総合] (やや易) 「デジタル機器使用のもつ認知能力低下抑制効果」に関する英文。英文そのものは読み易く、特に悩むところはない。要約英文完成問題から、言い換え文完成問題に変わった。他にも設問タイプの変更は見られたがどれも平易で差がつきにくい。
- II [長文総合] (やや易) 「クローヴィス文化におけるマンモス捕食」に関する英文。語形変化を伴う空所補充問題が消えた。記述問題もなくなったため、差がつきにくい。
- III [英訳] (やや難) 「禅における庭園の意味」を論じた日本語文。元の英語を想像しにくいタイプの日本語文であり、これまでの大阪医科薬科大学の出題傾向と若干異なる。正確に表現するのは難しいだろう。

大問構成は例年通り3題だが、2025年度前期からさらに設問内容に変化が見られた。前半2題の長文問題を合わせても和訳問題が1問、説明問題も1問のみで、他は空所補充などの記号選択問題となった。英訳問題のみが得点しにくい大問となっている。全体としてはやや易化。目標は70%

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

<p>医学部進学予備校</p> <h1 style="font-size: 2em;">メビオ</h1> <p>☎0120-146-156 https://www.mebio.co.jp/</p>	<p>医学部専門予備校</p>  <p>heart of medicine YMS</p> <p>医学部専門予備校</p> <p>英進館メビオ 福岡校</p>	<p>☎03-3370-0410</p> <p>https://yms.ne.jp/</p> <p>☎0120-192-215</p> <p>https://www.mebio-eishinkan.com/</p>	 <p>登録はこちらから</p>
---	--	---	---

<p>諦めない受験生をメビオは応援します！</p> <h2 style="font-size: 2em;">医学部後期入試</h2> <h3 style="font-size: 1.5em;">ガイダンス</h3> <p style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px;">参加無料</p> <h1 style="font-size: 3em;">2/11</h1> <p>(水・祝)</p> <p>14:00~14:30 お申込みはこちら▶</p> 	<p style="background-color: #f1c40f; padding: 5px;">後期入試もチャンスあり！</p> <h2 style="font-size: 2em;">私立医学部</h2> <p>2026年度入試対策</p> <h1 style="font-size: 3em;">大学別後期模試</h1> <p style="background-color: #2c3e50; color: white; padding: 5px;">近畿大学医学部 2/17(火)</p> <p style="background-color: #8e44ad; color: white; padding: 5px;">金沢医科大学 2/20(金)</p> <p>締切：4日前15:00 会場：エル・おおさか</p>	<p>詳細やお申込はこちらから</p> 
<p>医学部進学予備校</p> <h1 style="font-size: 2em;">メビオ</h1> <p>フリーダイヤル ☎0120-146-156</p>	<p>校舎にて個別説明会も随時開催しています。 【受付時間】9:00~21:00 (土日祝可)</p>	<p>大阪府大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋 天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩3分</p>